

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ET45F006	道徳教育特論(Special Seminar in Moral Education)					教育学						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1	大学院教育学 研究科			氏名 鈴木 篤  E-mail atsuzuki@oita-u.ac.jp 内線 7539						
授業の概要	本授業において受講者は、道徳教育の理論と実践に関する学問的知識と教育的実践力を習得する。また、道徳教育に関する現代的教育課題を解決するための判断力と問題解決能力を育成する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	道徳教育の理論と実践に関する学問的知識を習得する。											
目標2	専門的知識に基づき、道徳教育に関する現代的教育課題を解決するための方法を考える。											
目標3	理論と省察の往還を繰り返すことで、判断力と問題解決能力を育成する。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	導入											
2	道徳の普遍性と多様性											
3	道徳性評価の難しさ											
4	功利主義と自由尊重の道徳理論											
5	自由の限界とカントの道徳理論											
6	ロールズの道徳理論とアフターマティブアクション											
7	アリストテレスの道徳理論、共同体と道徳											
8	道徳的価値の正当性とその根拠											
9	価値観の多様性と道徳教育											
10	コールバーグの視角からとらえた道徳教育											
11	価値の内面化とモラルジレンマ(道徳授業法と理論的基盤)											
12	価値の明確化と統合的プログラム(道徳授業法と理論的基盤)											
13	相互主体的コミュニケーション(道徳授業法と理論的基盤)											
14	人権教育の実質化											
15	愛国心教育の注意点											
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	授業にあたっては事前に指示した文献(論文)を熟読していただくを前提とし(=理論の学習)、授業においては教育場面を想定した具体的な事例を題材として、主として受講者間、受講者-教員間での議論によって各自の思考を深化させる(=理論に基づく省察)。			工 夫 そ の 他 の							
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前に指示した文献(論文)の通読。										
	事後学修	授業中に行った議論内容の復習と整理。										
教科書	・中村清(2005年)『改訂 道徳教育論 価値観多様化時代の道徳教育』東洋館出版社。 ・岩本茂樹(2010年)『先生のホンネ 評価、生活・受験指導』光文社。 ・マイケル サンデル(2010年)『これからの「正義」の話しよう』早川書房。											
参考書	適宜、必要な文献は授業中に指示する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	事前に指示した文献(論文)の通読	50%										
	授業時の議論	50%										
注意事項	授業者間で議論を行う授業形式のため、受講生数を最大10名に制限する。 受講生の状況に応じて、授業内容を変更することがある。											
備考	授業中に指示する。											
リンク	URL											